

# 小・中学生にロボット教室

**NEWS CIT**

2014  
7.15

ニュースシーアイティ

千葉工業大学・入試広報部  
〒275-0016 千葉県習志野市津田沼  
2丁目17番1号  
TEL 047(478)0222 FAX 047(478)3344  
<http://www.it-chiba.ac.jp/>

毎月1回(8月を除く)15日発行

## ニュースガイド

- 2~3面 千葉工業大学決算
- 4面 27年度入試説明会/江尻研マシ  
ン3位/宮田准教授に論文賞/田島助教らに著作賞
- 5面 浴衣の着付けなど人気/夏企画・優勝は齋藤君/学生共済会予算・決算
- 6面 26年度PPA総会/クラブの活動状況

## Windows OS、Office 製品 アップグレードが容易に マイクロソフトと総合契約

本学は6月24日、日本マイクロソフト社と、同社が提供する教育機関向けライセンスプログラム「EES」を締結した。これにより、大学が管理する全PCに常にWindows OSのアップグレードやOffice製品の最新版(マック版にも対応)をインストールできるようにした。

また、在学生が個人でラ イセンスを購入することなく利用できる環境が実現した。

教職員は個人所有のPCに1人1台のみ、同様の利用が可能になった。在学生も、タブレットなどへの対応力を高めたクラウドサービス版のOffice 365 ProPlus(常に最新版)を1人5端末まで利用できる。契約プログラムの詳細は次のとおり。

Desktop Education  
Office Professional Plus  
Professional Upgrade  
Microsoft Core CAL Suite  
「教育機関向けDreamSpark」  
学生向けOffice 365 ProPlus

# 未ロボ学生らが指導

習志野市制60周年

連携協定成果第1弾



①津田沼2号館で始まったロボット研究教室  
②開始式典であいさつする小宮学長

習志野市立の小学校16校と中学校7校から1人ずつ参加した23人の児童・生徒たちが、本学未来ロボティクス学科の王志東教授と学生の指導でロボットについて学ぶ「ロボット研究教室」が6月15日に始まった。習志野市制施行60周年記念事業の一環。子どもたちは9月6日まで計4回開かれる教室を通して、ロボットのイロハから、実際に自分のロボットを製作するところまでを学ぶ。

## 9月まで4回

習志野市立の小学校16校と中学校7校から1人ずつ参加した23人の児童・生徒たちが、本学未来ロボティクス学科の王志東教授と学生の指導でロボットについて学ぶ「ロボット研究教室」が6月15日に始まった。習志野市制施行60周年記念事業の一環。子どもたちは9月6日まで計4回開かれる教室を通して、ロボットのイロハから、実際に自分のロボットを製作するところまでを学ぶ。

水大輔市議会文教福祉常任委員長、参加生徒らとその父母、参加23校の教員らが出席した。

まず、植松教育長が「習志野市は今年、市内にある3大学(本学、東邦大、日大生産工学部)と包括的連携協定を結んだが、その中で初めて千葉工大との協力を得て、この教室を開くことになった。これを契機に、それぞれの大学との連携を生かしながら習志野市の教育が充実することを期待している」とあいさつした。

次に宮本泰介市長、斎藤賢治市議会議長のメッセージが、それぞれ西村副市長、清水議員によって読み上げられた。

この中で宮本市長は「この教室を通して科学技術への関心を高め、将来、習志野から世界中の人たちのために活躍する人が出ることを期待している」、また、斎藤議長は「この教室でロボットに関する多くの知識や技術とともに、礼儀や人の関わり方なども学んでほしい」と、子どもたちに呼びかけた。

最後に第2中学校2年の小山莉生君が「今、僕らが思い描いている夢を将来、どのくらい実現させることができるか、チャレンジしていきたい」と決意を述べた。

この後、未来ロボット技術研究センターの古田貴之所長が「ロボット技術と未来社会」と題して、ロボットの魅力を分かりやすく講演。

子どもたちはこの目を皮切りに7月26日、8月23日、9月6日の4回の教室で、「プロロボ」の組み立てからプログラミングを経て、自分が作りたいロボットを決め、皆の前でプレゼンテーションするまでを実際にやり遂げる。子どもたちの指導には未来ロボティクス専攻の大学院生と同学部生10人が当たる。

子どもたちはこの目を皮切りに7月26日、8月23日、9月6日の4回の教室で、「プロロボ」の組み立てからプログラミングを経て、自分が作りたいロボットを決め、皆の前でプレゼンテーションするまでを実際にやり遂げる。子どもたちの指導には未来ロボティクス専攻の大学院生と同学部生10人が当たる。

## メキシコとの歴史に触れ

### 御宿町と連携協定締結

本学は6月6日、夷隅郡御宿町と包括的連携協定を締結した(6月15日号で一部既報)。「地域社会との共生」を目指して本学が同様の協定を締結した千葉県内の自治体は、習志野市、浦安市と合わせて2市1町となった。

御宿町との協定締結式は同町役場で行われ、瀬戸熊修理理事長と石田義廣町長が協定書を取り交わした。協定書には、両者が連携協力して行う事業として、教育研究、生涯学習、文化及びスポーツの振興発展、地域産業振興、まちづくり、人材育成、施設利用などが掲げられている。

2006年、町内岩和田に研修センターが完成して以来、本学は小・中学生のためのロボット講座開催やスカイリータウンキャンパスの見学受け入れなど、個別に同町との協力事業を行ってきた。

これに心えて瀬戸熊理事長は、同町がメキシコと友好関係を結んでいることに関連して、本学惑星探査研究センターの大野宗祐上席研究員が、6550万年前に起きた恐竜などの絶滅の仕組みを世界で初めて解明した研究も、メキシコに関係があることを紹介。

さらに、1887(明治21)年、金星の太陽面通過を観測するために来日したメキシコの天文学者、ディアス・コバルビアスに触れて、次のようなエピソードを披露した。

「コバルビアスは日本各地を旅行し、帰国後、『日本旅行記』を出版したが、その中で日本人の優れた国民性をたたえている。そのことが1888(明治21)年に日本とメキシコの間で締結された平等条約に生かされ、メキシコの親日政策の伏線となった。これは当時の明治政府を悩ませていた欧米列強との不平等条約の改正を勢いづかせることになった」……

この夏、御宿町は姉妹都市メキシコ・テカマチャルコ市の工科大学から短期留学生12人を迎え入れる。本学も協力し、留学生たちは本学の御宿研修センターで日本の環境・文化についての研修を受けるほか、新学生寮に宿泊してロボット技術の講義を受け、学生とも交流する予定だ。



# 千葉工業大学決算(平成25年度)を承認

学校法人千葉工業大学の平成25年度決算が5月28日の理事会・評議員会で承認された。25年度は新学生寮の竣工による教育研究環境の充実、学生への学修支援、経済的支援さらには研究の高度化への支援などを反映した決算となった。25年度事業計画の全文は本ウェブサイトで公開している。

## 1 教育研究活動

(1) 入学試験関係  
平成26年度入学試験(平成25年度実施)における学部入試の志願者数は4万3679名(前年度3万5554名、前年度比123%)となった。

(2) 学生生活の満足度向上への対応  
① 学生生活アンケート調査の実施と活用  
学生の動向を把握するとともに、学生の満足度向上に向け大学運営に反映させることを目的として実施しており、学生指導や教育計画立案等の実施に活かしている。

(3) 学生支援の充実強化  
学生センターでは、学習・研究・学生生活を総合的に支援し、センター内に設置されている津田沼教務課、芝園教務課、津田沼学生課、芝園学生課及び教育支援課が常に連携し学生支援にあたりている。

(4) 入学前教育の充実  
平成26年度入学者に対して(平成25年度実施)AO入学者に加え、自己推薦入学者も対象に、入学前にウォーミングアップセミナーのスクーリングを行い、入学後も継続的なフォローアップセミナーを行っている。

(5) TOEIC試験の実施  
学内において年6回、TOEICIPのテストを実施し、平成25年度は1000名近い学生が受講した。

(6) 初年次教育の充実  
① 初年次教育の実施  
高校から大学教育への円滑な移行を進めるために「学習技術」「補完教育(導入数学・導入物理・導入化学)」を初年次教育として実施した。

(7) 学習支援センター  
学習二一スに対応できる環境を整え、専任職員を多数採用しサポート体制の充実を図った。

(8) 教職員が連携した就職支援の推進  
厳しい就職状況が続く中、学科及び研究室指導教員が主体となり、学生一人ひとりの対話を積み重ねることを柱としている。これに加え、就職委員会と就職課が綿密に連携を取り学生の支援を進めた。

(9) キャリア教育(初年次から)の実施  
初年次のキャリア教育を促進させるべく就職委員会と就職課が中心となり、「学習技術」科目の中で講義を展開した。

(10) キャリア形成支援プログラムの強化  
スキルアップを目指した各種プログラムを実施した。秘書技能検定、公務員試験対策講座、知的財産管理技能検定を開設した。特に知的財産管理技能検定については全国大学合格者3年連続第1位となり、全国の大学で初めて表彰を受けた。

(11) 保護者向け就職支援プログラムの実施  
学生とのコミュニケーションを再考してもらうことを目的に「親子の絆セミナー」を宮城県、山形県、群馬県、長野県で開催した。

(12) インターシップの促進  
学部3年次・大学院1年次後期に向けて、学生が自分の将来を見据えた実務体験ができるインターンシップへの支援を行っている。

(13) 新入生に対する少人数制による総合的な支援  
① オリエンテーションの実施  
② クラス担任制  
③ メンター制度

(14) 習熟度別教育の充実  
入学時に実施するプレスマン

トテストの結果を参考に教養4科目、基礎8科目、その他専門科目において習熟度別クラスを開設し、学生個々のレベルにあわせた授業運営を行っている。

(14) JABEE(日本技術者教育認定機構)認定申請に向けた取り組み  
機械サイエンス学科(機械設計・開発コース)、建築都市環境学科(建築都市エンジニアリングコース)が、4月に認定を受けた。また、電気電子情報工学科(総合システム工学コース)、情報ネットワーク学科(ネットワークコース)は、認定が継続された。

・全教職員を対象に「JABEE進捗状況報告会」を開催し、各コースの情報や課題及び今後について共有し、報告内容については、学内グループウェアで周知した。

・JABEE等の概要が掲載された「技術士(国家資格)への挑戦!ガイドブック」を作成し、新入生やJABEEコースを希望する学生に配付した。

(15) FDの充実と研究・教育業績の多面的評価の推進  
① FDフォーラムの開催  
② 授業改善への取組み  
③ FD講演会の開催

(16) 学内無線LAN環境の大規模整備を実施  
(17) 基幹ネットワークの全面更改を実施

2 研究推進活動  
(1) 海外協定大学との連携強化  
① 学生の交流  
交換留学派遣、交換留学(受け入れ)、学生フィールドワーク(派遣)、海外セミナー(受け入れ)を実施した。

② 教職員の交流  
中国・哈爾濱工業大学及び吉林

林大学より客員研究員の受け入れ等を実施した。また、北京理工大学へ職員交流団を派遣した。

③ 新たな交流協定の締結  
国立台北科技大学(台湾)、ベトナム国家大学ハノイ校工科大学(ベトナム)、ハノイ工科大学(ベトナム)、グアム大学(アメリカ)、バンドン工科大学(インドネシア)と新規に海外交流協定を締結した。

(2) 電子ジャーナルの学外からの閲覧  
国立情報学研究所が運用している学術認証フェデレーションに参加したことにより、電子ジャーナルや学術データベースを学外から閲覧することが可能となった。

(3) 競争的研究資金等の獲得支援  
平成25年度科学研究費助成事業の申請件数は101件で、このうち継続分も含め70件が採択された。

(4) 奨学寄付金及び受託研究費  
平成25年度中に受け入れた奨学寄付及び受託研究は135件で、前年度比18件の増、金額は前年度比約1億6千万円の減となった。

(5) 公的研究費等の管理  
平成18年度から平成23年度までの公的研究費に係る全件を調査、合わせて私立大学経常費補助金にかかる経費の使用状況について調査を行い、不適正使用の全容解明に努め、文部科学省等への報告・了承を踏まえ調査結果をホームページなどにより公開した。また、公的研究費不正防止計画を策定し、全学を挙げて再発防止策の推進に取り組んだ。

(6) 研究助成関係  
① 特許  
平成25年度は18件を出願した。  
② 附属総合研究所  
・研究助成金の交付  
平成25年度から、学外の大型

研究費を獲得できる本学の核となる研究プロジェクトを育てるため、戦略的研究推進準備プロジェクトを新設した。また、科研費申請者採択前支援助成金を申請の準備支援を目的とする科研費申請準備支援助成金に改めた。

・研究活動報告会を6月13日に開催した。  
・材料解析室の各種機器利用時間は延べ3492時間で利用者563名。大学院生を対象とした解析機器基礎講習会を延べ26日間開催し、135名の学生が参加した。工作センターでの今年度の受託総件数は369件で、加工数は1万9900個。

(7) 未来ロボット技術研究センター  
① 公的機関からの受託研究費  
平成25年度発注用原子炉等廃炉・安全技術基盤整備事業、「生活支援ロボット実用化プロジェクト」、「NEDOプロジェクト」を核とした人材育成、産学連携等の総合的展開、「豚肉除骨装置向け肋骨断面認識の研究」、「基礎研究B」。

② その他  
東京電力に無償貸与したクイーンズ2が福島原発2号機原子炉建屋に投入された。

原発災害対応ロボット「櫻式」の記者発表を行い、三菱重工業株式会社と共同で開発・生産していくことで合意し、技術協力協定を締結したこともあわせて発表した。

(8) 惑星探査研究センター  
小惑星探査機「はやぶさ2」、次期火星着陸探査機「ミューロス」、欧州の木星系探査計画「ジュース」に参画した。特に、「はやぶさ2」では、レーザー高度計、光学航法カメラ、衝突装置、中間熱赤外カメラなど、全ての科学観測機器に関わり、プロジェクト全体を牽引する貢献を果たしている。他にも、独自の宇宙開発プロジェクトとして、流

星観測超小型衛星、宇宙ステーションからの流星観測を進めている。  
平成25年度中に受けた科学研究費補助金・競争的研究資金は13件で、合計1460万円となった。

(9) その他の活動  
・ロボカップ・ジャパン2013で5連覇達成。  
・第17回ロボカップ世界大会で優勝。  
・谷津船橋インターチェンジ(IC)開通ポスターをデザイン。  
・「第18回エコマッセ2013 in ちば」に出展。  
・プータン政府の要請に基づく調査。  
・イノベーション・ジャパン2013に出展

3 学生支援関係  
(1) 学生支援の充実強化(学生相談、課外活動、奨学金等)  
① 学生相談  
悩みを訴える学生に対応するためカウンセラーグループを開設した。

② 課外活動支援の充実  
毎年、支援するクラブを選出し、運動用具や備品を提供している。平成25年度は11クラブに対して支援した。さらに、全国大会出場や諸大会において優勝したクラブ等を表彰、平成25年度は18クラブを表彰した。

③ 奨学金支援活動  
千葉工業大学同窓会からの寄付を原資とした給付型の奨学金を創設し、人物・学業ともに優良な学生の中で経済的に困窮度が高い学部4年生を対象として募集、5名の学生に学生納付金半期相当額を上限として給付を行った。また、大学院の授業料を貸与する大学院奨学金制度では、合計80名の大学院生に貸与を行った。

東日本大震災及び長野県北部の地震の被災者に対しては、災害救助法適用地域世帯で半壊以上の被害に遭われた学生を対象とし、63名の学生に学生納付金の年額または半期相当額の減免を行った。

(4) S.A(学生サポーター)制度  
新習志野校舎の学習支援センターにおいて、現在21名のメンバーで活動している。

(2) 学生共済会の充実  
① 見舞金給付  
学生の疾病・傷病・死亡・災害被災などに対して、見舞金や弔慰金を給付している。平成25年度は53件の見舞金及び2件の弔慰金として、合計166万円を給付した。

② 学生納付金貸与制度  
14名の学生に対して、合計1027万円を貸与し、修学を継続させることができた。

③ メンタルヘルスサポートシステム及びドクターオポドクターネットワークシステム支援  
「こころから」の元気サポート(メンタル及び健康相談)は97件の利用があった。電話によるカウンセラーは61件の利用があった。

④ 暮らしの法律相談サービス  
消費者問題やアルバイト先の雇用条件に関する相談2件に対応した。さらに周知強化に努める。

⑤ 学生補償サポート制度  
全学生に対し個人賠償責任保険に加入、7件の事故に対応した。

(3) 留学生の受け入れ体制の充実  
留学生に対して授業料の減免や学生生活、在留手続、就職等に関するガイダンスを実施した。

(4) 自ら学ぶ環境の充実  
新習志野校舎図書館内に学習スペースを増設し、124席ある座席に、さまざまな学習形態に対応できる稼働式の机、椅子及びホワイトボードを用意することにより、グループ学習やプレゼンテーションの準備等に活用できるようにした。



消費収支計算書

平成25年4月1日から平成26年3月31日まで

(単位:円)

Table with 4 columns: 科目, 予算, 決算, 差異. Rows include 消費収入の部 (Consumer Income) and 消費支出の部 (Consumer Expenditure).

Table with 4 columns: 科目, 予算, 決算, 差異. Rows include 消費支出の部 (Consumer Expenditure) and 繰越金 (Carry-over funds).

Table with 4 columns: 科目, 予算, 決算, 差異. Rows include 繰越金 (Carry-over funds) and 繰上金 (Advance funds).

貸借対照表

平成26年3月31日

(単位:円)

Table with 4 columns: 科目, 本年度末, 前年度末, 増減. Rows include 資産の部 (Assets) and 負債の部 (Liabilities).

Table with 4 columns: 科目, 本年度末, 前年度末, 増減. Rows include 負債の部 (Liabilities).

Table with 4 columns: 科目, 本年度末, 前年度末, 増減. Rows include 基本金の部 (Equity).

Table with 4 columns: 科目, 本年度末, 前年度末, 増減. Rows include 消費収支差額の部 (Consumer Income/Expenditure Difference).

Table with 4 columns: 科目, 本年度末, 前年度末, 増減. Rows include 負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計 (Total Liabilities, Equity, and Consumer Income/Expenditure Difference).

4 施設設備整備関係

(1) 津田沼キャンパス 文部科学省からエコキャンパスの補助金交付を受けながら、6号館の屋上に本学初となる風力発電システム(最大6キロワット)を導入した。

5 地域・社会への貢献

(1) 大学の特色を活かした公開講座の推進 (2) 産官学連携協議会関係 平成25年6月13日の総会をもって「技術情報振興会」を発展

6 法人管理・運営関係

(1) 災害発生時における帰宅困難者の受入等に関する協力協定の締結 (2) 自己点検評価活動 (3) 公的研究費等の監査の実施

7 財務の概要

(1) 帰属収入1億63億8000万円(予算比1億56000万円増)

円増 前年度比5億4000万円増 (円減) 帰属収入は、事業収入(受託事業収入)が予算比5400万円

円増 前年度比5億4000万円増 (円減) 帰属収入は、事業収入(受託事業収入)が予算比5400万円

資金収支計算書

平成25年4月1日から平成26年3月31日まで

(単位:円)

Table with 4 columns: 科目, 予算, 決算, 差異. Rows include 収入の部 (Income) and 支出の部 (Expenditure).

Table with 4 columns: 科目, 予算, 決算, 差異. Rows include 支出の部 (Expenditure).

① 収入面 (1) 学生生徒等納付金の安定的確保 (2) 外部資金の獲得 (3) 資産運用の一層の効率化とリスク管理の徹底 (4) その他の収入源確保策の検討

② 支出面 (1) 人件費・管理経費の効率化 (2) 教育研究経費の見直し

有価証券処分差額と図書処分差額。保有する資産の運用リスクを軽減する観点から、有価証券の売却を行った結果、差額(4500万円)が発生した。ただし、売却した資産はこれまでの利息収入で十分に資産運用効果を得ている。図書の除却額は6000万円。

消費支出の前年度比は、7億8800万円の減少となっている。主な要因は次のとおり。人件費7700万円増(内、退職給与引当金7400万円)

教育研究経費10億3100万円増 (新習志野学生寮他) 修繕費2億2200万円増 (東京スカイツリータウンキャンパス他) 資産処分差額1億2400万円増 (津田沼6号館他) 受託研究費1億4200万円減

主な内訳 管理経費2億9000万円増 建物除却差額1億4100万円減(平成25年度取り壊し対象建物なし) (3) 帰属収支差額 17億6700万円のプラス(帰属収支差額比率10.8%)となった。



# 計148校の高校教諭参加

## 27年度入試説明会 2回開く

本学の27年度入試説明会が5月30日、初めて東京スカイツリータウンキャンパスで開かれ、関東

地方を中心に71校72人の高校教諭が参加した。冒頭、日下部聡入試広報部長が「このキャンパ

スはお年寄りからお子まで幅広い皆さんに、最先端の科学技術に親しんでもらおうと2年前に開設しましたが、お陰さまで入場者は32万人に達しました」とあいさつ。

続いて小宮一仁学長が「私はいま52歳。全国の大学学長の中で11番目の若さで、オバマ大統領と同じ年なのです」と自己紹介した後、本学72年の歴史や学部・学科構成、施設、教職員など教育体制の現況を説明。

この中で学長としての大学「ハズレ」ジョンとして、「多彩さ、多様性を大切にし、工学系を中心に、デザイン、情報、マ

「ご批判が強かった退学率・留年率も、この2年間で相当改善した。これから4年間でさらに卒業できる学生の数を増やしていく」「卒業生の就職は理系好調の波に乗って、昨年度の卒業生の進路決定率は95%まで回復した」「学部志願者は6年連続で増加し、昨年度は初めて4万人を突破。志願者の増加数では全国1位に輝いた」

そして「師弟同行・師弟共生の教育目標の下、

熊本忠彦教授（情報科学部情報ネットワーク学科）が、27年度入試について説明。AO入試、推薦入試、前年度入試との相違点や一般入試、センター利用入試のほか、試験日自由選択方式、併願受験料優遇制、参加高校の卒業生の成績や進路状況などについても、入試広報課の出口武志課長とともに丁寧に説明した。



スカイツリータウンキャンパスで開かれた入試説明会

「私はいま52歳。全国の大学学長の中で11番目の若さで、オバマ大統領と同じ年なのです」と自己紹介した後、本学72年の歴史や学部・学科構成、施設、教職員など教育体制の現況を説明。

この中で学長としての大学「ハズレ」ジョンとして、「多彩さ、多様性を大切にし、工学系を中心に、デザイン、情報、マ

「ご批判が強かった退学率・留年率も、この2年間で相当改善した。これから4年間でさらに卒業できる学生の数を増やしていく」「卒業生の就職は理系好調の波に乗って、昨年度の卒業生の進路決定率は95%まで回復した」「学部志願者は6年連続で増加し、昨年度は初めて4万人を突破。志願者の増加数では全国1位に輝いた」

そして「師弟同行・師弟共生の教育目標の下、

熊本忠彦教授（情報科学部情報ネットワーク学科）が、27年度入試について説明。AO入試、推薦入試、前年度入試との相違点や一般入試、センター利用入試のほか、試験日自由選択方式、併願受験料優遇制、参加高校の卒業生の成績や進路状況などについても、入試広報課の出口武志課長とともに丁寧に説明した。

「ご批判が強かった退学率・留年率も、この2年間で相当改善した。これから4年間でさらに卒業できる学生の数を増やしていく」「卒業生の就職は理系好調の波に乗って、昨年度の卒業生の進路決定率は95%まで回復した」「学部志願者は6年連続で増加し、昨年度は初めて4万人を突破。志願者の増加数では全国1位に輝いた」

そして「師弟同行・師弟共生の教育目標の下、

熊本忠彦教授（情報科学部情報ネットワーク学科）が、27年度入試について説明。AO入試、推薦入試、前年度入試との相違点や一般入試、センター利用入試のほか、試験日自由選択方式、併願受験料優遇制、参加高校の卒業生の成績や進路状況などについても、入試広報課の出口武志課長とともに丁寧に説明した。

# 江尻研マシン 3位

## WEM 燃料電池部門に出場

電気自動車の省エネ性能を競う「ワールド・エコノムープ（WEM）2014」第20回記念大会は5月4、5日、秋

田県大瀧村ソーラーポーツラインの6ヶ往復コースで開かれた。全国の大学・高専などから63チームが参加。本学機械サイエンス学科・江尻英治研究室チーム（磯野大樹さん）機械サイエンス専

攻修士1年（ら5人）のマシン「Violet Beam03」が燃料電池部門オープンクラスに出場し、3位に入賞した。

江尻研究室は2010年から参加し今年で5回目。このレースでは一定量のバッテリーや水素を与えられ、2時間内にどれだけ距離を走れたかを競う。江尻研究室はイオンホイールモーター、ウ

ルトラキャパシタ、ボデーにCFRP（炭素繊維強化樹脂）を使ったハイテクマシンを短期間で製作した。

泉翔理君（同学科4年）をドライバーに、レースマネジメントは鈴木雅人君（同）が担当。レース中盤、雨が降り出したが、大きなトラブルもなく2時間を走り、総走行距離40.3キロで3位

入賞を果たした。総監督を務めた磯野さん、燃料電池が空冷タイプ

は「例年より気温が高

んは「例年より気温が高

んは「例年より気温が高



Violet Beam03号と江尻研チーム

キメ細かい、温かい教育で、建学の精神の『世界文化に技術で貢献する』人材を育てていく」と結んだ。

この後、入試委員長の熊本忠彦教授（情報科学部情報ネットワーク学科）が、27年度入試について説明。AO入試、推薦入試、前年度入試との相違点や一般入試、センター利用入試のほか、試験日自由選択方式、併願受験料優遇制、参加高校の卒業生の成績や進路状況などについても、入試広報課の出口武志課長とともに丁寧に説明した。

「ご批判が強かった退学率・留年率も、この2年間で相当改善した。これから4年間でさらに卒業できる学生の数を増やしていく」「卒業生の就職は理系好調の波に乗って、昨年度の卒業生の進路決定率は95%まで回復した」「学部志願者は6年連続で増加し、昨年度は初めて4万人を突破。志願者の増加数では全国1位に輝いた」

そして「師弟同行・師弟共生の教育目標の下、

熊本忠彦教授（情報科学部情報ネットワーク学科）が、27年度入試について説明。AO入試、推薦入試、前年度入試との相違点や一般入試、センター利用入試のほか、試験日自由選択方式、併願受験料優遇制、参加高校の卒業生の成績や進路状況などについても、入試広報課の出口武志課長とともに丁寧に説明した。

熊本忠彦教授（情報科学部情報ネットワーク学科）が、27年度入試について説明。AO入試、推薦入試、前年度入試との相違点や一般入試、センター利用入試のほか、試験日自由選択方式、併願受験料優遇制、参加高校の卒業生の成績や進路状況などについても、入試広報課の出口武志課長とともに丁寧に説明した。

# 宮田准教授に論文賞

## 画像復元の手法を提案



宮田准教授

画像処理を研究する電気電子情報工学科の宮田高道准教授が、2012年暮れに電子情報通信学会の論文誌に発表した「Image Recovery by Decomposition with Regularization (成分分離と成分ごとの正則化による画像復元)」が、

田沼校舎で2回目の入試説明会が開催され、77校78人が参加した。昨年度に続いてキャンパス見学会を行い、惑星探査研究センター内「国際宇宙ステーション流星観測ミッション運用室」や生命環境実験室において「高分解能NMR分光計」等充実した研究設備を見て回った。

宮田准教授は「この年度」論文賞に選ばれ、6月5日、東京・芝公園の機械振興会館で表彰された。

論文は、雑音やピンぼけなどで劣化した画像（観測画像）から劣化のない、きれいな画像（原画像）を推定する画像復元問題について。原画像

について、予め分かっている特徴を凸関数で表した正則化項を用いる手法が数多く提案されてきた。しかし、画像全体を滑らかにする正則化項が採用されてきたため、テクスチャ（質感表現）などの精細な画像情報の復元は困難だった。

宮田准教授は「この年度」論文賞に選ばれ、6月5日、東京・芝公園の機械振興会館で表彰された。

# 住まいのリノベーション図鑑

## 田島助教らに著作賞

都市住宅学会



田島助教らはH.E.A.D.研究会リノベ図鑑製作委員会を編成して執筆。他の執筆者は馬場正尊（東北芸術工科大学准教授、新堀アトリエ一級建築士事務所の新堀学氏、ブルースタジオの大島芳彦氏、佐々木設計事務所の佐々木龍郎氏、らいおん建築事務所の嶋田洋平氏。

田島助教は「光栄な賞をいただき、うれしく思います。少子高齢化が進む日本では、不動産ストックの再生が大きな力になります。リノベーションを通して都市再生の可能性を今後も進めて行きたい」とコメントしている。

田島助教らはH.E.A.D.研究会リノベ図鑑製作委員会を編成して執筆。他の執筆者は馬場正尊（東北芸術工科大学准教授、新堀アトリエ一級建築士事務所の新堀学氏、ブルースタジオの大島芳彦氏、佐々木設計事務所の佐々木龍郎氏、らいおん建築事務所

江尻教授は「レースは思ったように行かないもの。周回準備ももちろんですが、想定外の事態に迅速的確に対応できるかどうか勝負を決めます。自分たち手作りの『走の実験室』に関わることで、学生には技術力と人間力を身につけてほしい」と語った。

建築都市環境学科の田島則行助教が、学外の5人と共同執筆した「最高に気持ちいい住まいのリノベーション図鑑」（エクスナレッツ社刊、B5判231ページ）が、都市住宅学会が選ぶ2014年学会賞の著作賞に選ばれ、5月19日、東京・水道橋の住宅金融支援機構すまいるホールで表彰された。

住宅業界では、中古住宅を再生する「リノベーション」が加速している

田島助教らの著作は、不動産ストック活用

田島助教らはH.E.A.D.研究会リノベ図鑑製作委員会を編成して執筆。他の執筆者は馬場正尊（東北芸術工科大学准教授、新堀アトリエ一級建築士事務所の新堀学氏、ブルースタジオの大島芳彦氏、佐々木設計事務所の佐々木龍郎氏、らいおん建築事務所

田島助教らはH.E.A.D.研究会リノベ図鑑製作委員会を編成して執筆。他の執筆者は馬場正尊（東北芸術工科大学准教授、新堀アトリエ一級建築士事務所の新堀学氏、ブルースタジオの大島芳彦氏、佐々木設計事務所の佐々木龍郎氏、らいおん建築事務所



# 浴衣の着付けなど人気

## 学生支援企画 “地域へ進出”も

学生センターは2010年以來、学生・教職員の授業外交流を目的とした「学習支援プログラム」に取り組んでいる。主に、新入生が充実した大学生活を送れるよう友人づくり▽体力づくり▽スキルアップ・マナーの3テーマを掲げ、今年も各種プログラムを開催。学内を出て、地域へ交流の輪を広げるプログラムもある。

### 女子イベント 「浴衣着付け」

6月3日、10日と2週にわたり、新習志野キャンパス12号館8階で開かれた。

講師は山野流着装講師・アトリエInfan代



無事に着付けて、ハイ、集合！

から好きな柄を選ぶ。津田沼キャンパスから駆け付けたリピーターや「自分の浴衣を持ってきまして」と大きな袋を抱えた学生もいた。

前編は「浴衣選びのポイント」。講師を基本に一連の動作を学んだ後、グループに分かれ、手とり足とり指導を受けた。「次は……何だったか？。慣れない動作に苦戦する参加者たち。

表・山邊友子さん率いる4人。女子学生30人限定で2週を前編、後編に分

け、自力で着ることを学んだ。参加者は毎回、色とりどりの貸浴衣セット

「頼み事をしてくる町人」、「逃げる時に役に立つアイテムを販売する商人」などを配置し、ストーリー性を持たせた。

参加者たちは、12万4千平方メートルの広いキャンパス内をひたすら走り敵「忍」から逃げ回った結果、西軍が見事勝利を手にした。

西軍の生き残りはそのまま最終決戦に臨み、抽選の結果、優勝の座に輝いたのは齊藤君（機械サイエンス学科1年）。タブレットPCを贈られ「暑い中、頑張ったかいがあった。うれしい」と喜びを語った。

ミニゲームのミッション成功者＝鷹野圭吾君（建築都市環境学科1年）、藤縄隼人君（電気電子情報工学科2年）、山本航平君（電気電子情報工学科1年）、齊藤拓君にも副賞が贈られた。

参加者たちは「全力で走るの久しぶり！楽しかった。実行委員長の荒井君は「皆さんが楽しんでくれたことが一番うれしい。企画をやり抜き、達成感を味わえた」と話していた。

## 優勝は機サ・齋藤君



### 習志野夏の陣に152人

日（日）、学生ら152人が参加し、新習志野キャンパス全域を利活用して開かれた。

今年の設定は「東軍対西軍」習志野夏の陣。戦国をイメージして東軍と西軍に分かれ、互いに放つて相手を捕らえ、人数を減らす戦い。逃げ場エリアに

「頼み事をしてくる町人」、「逃げる時に役に立つアイテムを販売する商人」などを配置し、ストーリー性を持たせた。

参加者たちは「全力で走るの久しぶり！楽しかった。実行委員長の荒井君は「皆さんが楽しんでくれたことが一番うれしい。企画をやり抜き、達成感を味わえた」と話していた。



スポーツスタッキングに集まった学生たち。下は練習風景



スポーツスタッキングに集まった学生たち。下は練習風景

パフォーマンスを披露した後、参加者の個人練習、団体戦・個人検定を行った。団体戦では優勝チームが瀬尾氏との勝負に挑んだ。個人検定は1分間で何回できるかを測定。最高記録は13回だった。後期も開催予定。この人気プログラムは、いよいよ地域へ進出。9月6日、東習志野コミュニケーションセンターで開かれるイベントに参加し、瀬尾氏と本学有志が「スポーツスタッキング体験教室」を開く予定（詳しくは津田沼学生課）。

まず、瀬尾氏が華麗なお付き合い。いまでは文化の祭典や学生支援プログラムで、おなじみの競技になった。

まず、瀬尾氏が華麗なお付き合い。いまでは文化の祭典や学生支援プログラムで、おなじみの競技になった。

### 平成26年度千葉工業大学学生共済会収支予算

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
1. 会費収入	23,500,000	1. 支払保険料	20,000,000
2. 入会金収入	4,500,000	2. 給付金	5,000,000
3. 同窓会援助金	0	3. 貸与金	30,000,000
4. 受取利息	150,000	4. 委託費	7,000,000
5. 貸付金回収収入	26,000,000	5. 通信費	800,000
6. 手数料収入	1,800,000	6. 印刷費	700,000
7. 学費貸与準備金取崩収入	0	7. 会議費	200,000
8. 前年度繰越金	30,416,054	8. 事務費	500,000
		9. 学費貸与準備金組入支出	0
		10. 共済基金組入支出	0
		11. 積立金組入支出	20,000,000
		12. 予備費	2,166,054
合計	86,366,054	合計	86,366,054

### 平成25年度決算報告書

借借対照表 平成26年3月31日 千葉工業大学学生共済会			
資産の部		正味財産の部	
科目	金額	科目	金額
(流動資産)		共済基金	205,000,000
普通預金	30,416,054	積立金	118,000,000
定期預金	488,000,000	貸付充当金	176,022,560
計	518,416,054	計	499,022,560
(固定資産)		学費貸与準備金	165,000,000
貸付金	176,022,560	次年度繰越金	30,416,054
計	176,022,560	計	195,416,054
合計	694,438,614	合計	694,438,614

### 平成25年度収支決算書

I 収入の部				II 支出の部			
科目	予算額(①)	決算額(②)	差引増減額(②-①)	科目	予算額(①)	決算額(②)	差引増減額(②-①)
1. 会費収入	24,000,000	23,687,500	△312,500	1. 支払保険料	35,000,000	31,910,440	△3,089,560
2. 入会金収入	4,500,000	4,696,000	196,000	2. 給付金	6,000,000	1,657,000	△4,343,000
3. 同窓会援助金	500,000	500,000	0	3. 貸与金	30,000,000	10,267,500	△19,732,500
4. 受取利息	150,000	170,621	20,621	4. 委託費	6,900,000	6,852,300	△47,700
5. 貸付金回収収入	25,000,000	28,647,427	3,647,427	5. 通信費	100,000	1,187,632	1,087,632
6. 手数料収入	1,800,000	1,796,302	△3,698	6. 印刷費	1,500,000	1,160,250	△339,750
7. 学費貸与準備金取崩収入	0	9,000,000	9,000,000	7. 会議費	200,000	144,400	△55,600
8. 積立金取崩収入	20,000,000	20,000,000	0	8. 事務費	400,000	450,063	50,063
9. 前年度繰越金	5,547,789	5,547,789	0	9. 学費貸与金組入支出	0	10,000,000	10,000,000
				10. 共済基金組入支出	0	0	0
				11. 積立金組入支出	0	0	0
				12. 予備費	1,397,789	0	△1,397,789
当期収入計(A)	81,497,789	94,045,639	12,547,850	当期支出計(B)	81,497,789	63,629,585	△17,868,204
				当期剰余金(A)-(B)	0	30,416,054	30,416,054

## 学生共済会予算、決算を承認

### 予算

5月26日に開かれた理事会で、平成26年度学生共済会予算案は異議なく承認された。予算の概要は次のとおり。

△収入の部▽  
●貸付金回収収入  
近年滞納者増加により回収率が低下していたが、督促を強化したことと、若干ではあるが景気が持ち直したことから、昨年度より100万円増額が見込め、2600万円を計上した。

●前年度繰越金  
3041万6054円を計上した。

△支出の部▽  
●給付金  
給付金支出金額は、不測の事態に備え500万円を計上した。

●支払保険料  
平成25年度から全学生（会員）に対して新たに加入した損害賠償保険料を含め、通学中の怪我等に対応する学生教育研究災害傷害保険料として2000万円を計上した。

●委託費  
今年度は昨年同様、このことから元の元気サポート、暮らしの法律相談の継続に係る費用と消費税改正に伴い700万円を計上した。

●印刷費  
新規事業のリーフレットや更なる共済会事業の周知に向け、70万円を計上した。

### 決算

平成25年度の学生共済会決算は5月26日に開かれた理事会で、異議なく承認された。決算の概要は次のとおり。

収入の部では、同窓会からの援助金が50万円、また貸付金回収の2800万円等を併せ合計約9040万円となった。これからも、返還方法や督促方法を見直し、回収率アップに努めたい。

支出の部では、大学の給付奨学金や学費提携ローンの認知度が高まり、共済会貸与制度と並行して申請する学生が増加している。また、東日本大震災の特別支援制度もあり、貸与者は減少している。

千葉工業大学学生共済会も26年目を迎え、今後ともより良い学生生活を送れるようサポートしつつ、平成25年度も順調に運営されましたことをご報告致します。



平成26年度PPA地区懇談会

開催時刻：13時（本学は12時30分）

Table with 4 columns: 地区 (Region), 開催日 (Date), 会場名 (Venue Name), 電話 (Phone Number). Lists 47 regional venues across Japan.



平成26年度PPA総会が6月28日、習志野文化ホールで開催。写真、案を承認。新会長に庄司

さらさらに確かな礎を

26年度PPA総会 新会長に庄司氏

25年度の事業・決算報告と26年度事業計画・予算科3年の保護者）を選任した。学生の父母など委任状を含めて4003人の会員が出席した。



④学科ブースで説明を聞く父母たち ⑤個別相談ブースで面談



感性探査研究センターも世界的な研究成果を上げて、新技術や新市場の創出という時代の要請に心懸けている。私は28年後の創立100周年に向け、本学のさらに確固とした礎を築いていく所存です」と決意を表明

その他の幅広い事業についても理解と助言・支援を賜り、皆さまと一緒にPPAを盛り上げていきたい」とあいさつ。

「私が学長に就任して6月29日である2年。この間に、理事長との信頼関係に基づいた意思決定と大規模な教育・研究の活性化、大学の国際化などに力を入れてきた。今後も質の高い留学プログラムやキャリア形成プログラムの実現を図るなど、人間的にも強いグローバルな人材育成のための改革をより強化していく」と、会場を埋めた父母に語りかけた。

承認された26年度事業計画では、援助活動担当事業の枠組みを、①学生課外活動支援②学生奨学支援③学生進路支援の3本柱に変更し、学生奨学支援の中に「学生の研究活動への援助」を新設することになり、予算が付けられた。

総会で承認された26年度の副会長、監事は次のとおり。▽副会長 橋本和明・生命環境科学科教授（理事・評議員） 田部井洋子（生命環境科学科3年の

クラブの活動状況

Table with 3 columns: 大会・発表会名 (Event/Conference Name), 期間 (Period), 大会・発表会名 (Event/Conference Name). Lists various sports and academic events.

上記クラブのほか、多くのクラブが課外活動に動んでいます。定期的にいろいろなクラブの活動状況をお知らせしています。学生たちのがんばりにご期待ください。

留學生と、本学日本人学生との交流を楽しむ場として「Global Cafe」がプレオープンした。7月11日に記念すべき第1回を開催。台風の影響にも負けず、用意したスペースがほぼ満席となる学生達が参加した。当日は、カフェ店長な

編集だより



現代を生きる上で、感性を養うことが大切だとつくづく思う。世界の動き、人々の嗜好、科学技術が猛烈な勢いで変容する中で、固定観念にとらわれた頭ではもはや生き延びられない。常に未来に目を向けた柔軟な発想が若い世代には求められる。それでは感性はどうか。個人得強化できるのか。個人的には「浴びるように芸術に接する」ことを勧めたい。芸術は、美術や音楽など何でも良い。ただし、新しいことが条件である。現代(前衛)芸術は、理解不能、変人の作品、と感じるかもしれない。実際、現代芸術の理解は難しい。しかし、浴びるように触れていると、ときどき雷が打たれるような作品に出会う。それです。現代(前衛)芸術は、理解不能、変人の作品、と感じるかもしれない。実際、現代芸術の理解は難しい。しかし、浴びるように触れていると、ときどき雷が打たれるような作品に出会う。それです。

四季雑感



PPA総会も何とか無事に終わり、会長としての重責を終えることができ、ほっとしています。本学を卒業して20年経って、このような形で母校に恩返しできたことを誇りに思います。学生当時、現在の津田沼校舎が、千葉ベイエリアのランドマーク的な存在に何でも構いません、一

PPA



在になることを誰が想像したでしょう。古い実験棟の1、2号館、卒業完成に向け何日も徹夜をした3号館、唯一エレベーターがあり、地下が学食でカレライスが絶品だった4号館、仲間と悔しさを共にしたテニスコート、いつも汗臭く、ホコリっぽかった部屋棟など、自分の残像にある校舎は、形を変え大きく進化しました。学生の皆さん、在学中に何でも構いません、一